

外国語学部 国際関係学科
小論文

【注 意】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は13時00分から15時00分まで(120分間)です。
3. この問題冊子は表紙以外に6ページあり、解答用紙は2枚、下書き用紙は1枚あります。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答はすべて解答用紙の解答欄に改行せずに記入してください。
6. 解答用紙の氏名欄を除き、受験者本人の特定につながるような氏名、住所、学校名等は記述しないでください。
7. 解答用紙を持ち出してはいけません。持ち出した場合、試験をすべて無効とします。
8. 試験終了後、問題冊子および下書き用紙は持ち帰ってください。

次の3つの文章を読んで以下の問いに答えなさい。

[資料1]

著作権保護の観点から、公開していません。

著作権保護の観点から、公開していません。

著作権保護の観点から、公開していません。

(Adapted from Debito Arudou, "Yes, I can use chopsticks: the everyday 'microaggressions' that grind us down," *The Japan Times*)

注

- (1) interactions : 相互作用、やり取り、ふれあい
- (2) speed dates : お見合いのようなもの
- (3) microaggressions : micro (小さい) + aggression (攻撃)、マイクロアグレッション
- (4) indignities : 侮辱、冷遇
- (5) denigrating : けなす、軽視する
- (6) well-intentioned : 善意の
- (7) verbal : 言葉の、口頭の
- (8) submissive : 服従的な、従順な
- (9) microinsults : micro + insult (侮辱、無礼)
- (10) microinvalidations : micro + invalidation (無効にすること)
- (11) validity : 有効性、妥当性
- (12) keep to themselves : 自分の殻に閉じこもる
- (13) paranoid : 被害妄想的な
- (14) denial : 拒否、否認
- (15) preconception : 先入観、偏見

[資料2]

カトリーヌは大学院で経営学を専攻していた。彼女はきちんとした黒のブレザーとスカートを着て、コロンビア大学からマンハッタンのダウンタウンへと向かう地下鉄1号線に乗っていた。この日、カトリーヌは証券会社で2回目の面接に向かっていたのだが、中級管理職と行った1回目の面接が非常にうまくいったと感じていたため、とてもうきうきしていた。そして彼女は、希望する部署の副部

長から、もう一度面接に来て欲しいと言われていた。カトリーヌは自分の他にも2人の最終候補者がいることを知っていた。しかし同時に、彼女は自分がその会社に利益をもたらす専門的かつ特別なトレーニングを受けてきたことを強みだと感じていた。

列車に乗っている間、カトリーヌはいつものように周りの人が自分をチラチラ見てくる視線に耐えていた。中にはいやらしくじろじろ見てくる人もいた。タイムズスクエアで非常に混雑した地下鉄を出ると、彼女は列車に乗り込もうとする通勤客の流れに押しつぶされながら外に出ようと試みた。1人の男性が、彼女が困っている様子を見てしっかりと彼女の腰に手を回し、プラットフォームへとエスコートした。彼は腰にそえた左腕で彼女を出口まで押していき、2人は勢いよく階段を進んだ。そこでは人混みは少なくなっていた。腰から手を離す時、男性は満足そうに微笑み、うなずいた。明らかに、自分がナイトのように丁重に振る舞ったと信じているようであった。カトリーヌは許可もなく触られたことを不快に感じたが、ともかく彼にお礼を言った。

面接の間、副部長はとてものくだけた様子でリラックスしていた。しかしカトリーヌは気づいていた。副部長が男性社員のことは「〇〇さん」と苗字(みょうじ)を呼ぶのに対し、女性社員に対しては「〇〇ちゃん」と下の名前で呼んでいることを。彼は何度か彼女のことを「キャシー」と愛称で呼んだ。カトリーヌは副部長に「カトリーヌ」と呼んで欲しいと言おうと思ったが、雇い主になるかもしれない人と仲違いしたくはなかった。彼女はなんとしてもその職に就きたかったのだ。カトリーヌがその役職の採用基準について尋ねた時、副部長はこんなジョークを言った。「君は一体、なんでそんなに働きたいんだい？君ならいつでもイイ男を見つけれられるのに」

カトリーヌが笑わず真剣な顔でいると、副部長は急いでこう付け足した。「私は、最も適した人物がこの職に採用されるべきだと思っています。私たちはすべての男性と女性を平等に扱います。正直言って、私は社員が男性か女性かなど考えたことすらありません。人間はただ人間であり、誰でも平等に雇用され成功する機会を持っているのです」

カトリーヌはその返答をとてもの不快に感じた。そして自分は採用されないことを悟りながら、面接会場を後にした。

(デラルド・ウィン・スー著 (マイクロアグレッション研究会訳) 『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション:人種、ジェンダー、性的指向』による。ただし、出題に際して原文の一部を改めた。)

[資料3]

「女性らしさ」が強調されたリクルートスーツ、面接時には必須とする「ちょうどいい化粧」——。就職活動する学生に対して、こうした押しつけをやめてほしいという声が性的少数者を中心に上がっています。

フリーで翻訳の仕事をする Aさん (31) は大学生だった10年前、就職活動に臨んだ。ゆったりめのパンツスーツにネクタイを締め、面接会場に向かった。その途中で怖くなった。「面接担当者におかしいと思われる」

駅のトイレに駆け込んだ。ネクタイをはずし、化粧をした。ヒールのある靴に履き替え、靴下はストッキングに。それでも、かばんが男性用だと気づかれたらどうしよう、と不安は消えなかった。

戸籍上は女性だが、性自認は、女性にも男性にも当てはまらないと考える「Xジェンダー」。「服装やマナーでつまずき、どんな仕事がしたいのかまでたどり着けなかった」。就職活動を断念。体調を崩し、大学卒業前後の3カ月ほど自宅から出ることができなくなった。

職場でパンプスを強制することに疑問の声を上げる「#KuToo」運動を立ち上げた俳優の石川優実さんに数年前に出会い、就職活動での「らしさ」の押しつけも抑圧や差別だと気がついた。

昨年11月、インターネット上で「#就活セクシズムをやめて就職活動のスタイルに多様性を保証してください!」という署名活動を立ち上げた。メンバーは会社員や就職活動中の学生、マナー講師ら約10人だ。

「極端に二元化した男女別スタイルやマナーの押しつけをやめて、多様性のある装いのスタイルを提案して」「女性はこうすべき、男性はこうすべきという偏った表現は差別や抑圧につながるため見直しを」と求める。

どういった表現が「ジェンダーの押しつけ」に当たる恐れがあるのか。署名活動のメンバーに聞いた。

例えば大手アパレルのホームページでは、女性用のリクルートスーツの紹介で「女性らしさを引き立たせて、第一印象から美しく」の言葉が目立つ。別のアパ

レル企業などのサイトでは、ノーメイクの女性のイラストを提示し、「ファンデーションで肌を明るく均一に整え、ポイントメイクはいつもよりもしっかりめに」と求める。

メンバーの調べでは、合同企業説明会の情報を掲載するサイトで「オジサマ受けの良いシンプルでさわやかなスーツで身を包み、清楚（せいそ）な子を演じればいい」との表現も一時期見られた。書籍では、「一次面接こそスカートで勝負を」「女性は面接官の息子の嫁にしたいタイプがベスト」などと記載されたものもあった。

こうした表現について、Aさんは「就職活動で学生にリスクをとらせないために生み出されたものだろうが、『美しさ』『清楚さ』など仕事の能力とは無関係の要素を女性に求めるのはセクハラにあたる」と指摘。「就活関連企業は、学生が自分らしく働くための第一歩となるよう多様なスタイルを提案してほしい。そして学生を採用する企業は、その人らしい服装や振る舞いを受け入れると積極的にアナウンスして」と求める。

（「就活、「らしさ」押しつけないで 性的少数者ら、ジェンダーのあり方問う声」『朝日新聞』による。ただし、出題に際して原文の一部を改めた。）

※承諾番号22-1745 朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。

問1 資料1の下線部 delicate social mechanisms to put people "in their place" が意味するところを、資料1の具体例を用いながら、500字以上600字以内の日本語で説明しなさい。（50点）

問2 資料2、資料3は、資料1と関連した文章です。資料2、3から、記載されているエピソードをそれぞれ一つ以上は取りあげて、問題となっている差別について、資料1の筆者の意見と関連させながら、700字以上800字以内の日本語で説明しなさい。（50点）